

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502405		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームこもれび Aユニット(1階)		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-30		
自己評価作成日	令和4年11月4日	評価結果市町村受理日	令和5年2月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502405-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

直ぐ近くには月寒川が流れ、白石東公園や白石かしわ山公園もあり札幌市内にありながら緑豊かで静かな環境に位置しており、春には公園で桜を楽しむことができます。また、近隣には小学校があり子供たちが元気に遊ぶ姿が見られ、近隣には白石神社もあり、地域と共に生活を送ることができる環境にあります。施設内では暖かな陽が差し込む居間で入居者様がゆったりと過ごされ、カラオケやカルタ、体操や風船パレー等のレクリエーションや日常生活支援としてもやしのひげ取りや野菜の皮むき、洗濯干し等も積極的に行われています。
職員育成では資格取得制度があり、キャリアアップが可能な環境が整備されやりがいを感じられる体制があり、さらに日々意見交換を行う等、チームで支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームこもれび」は近くに月寒川が流れ、公園などもある自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。居間と食堂は中庭や吹き抜けから明るい光が注ぐ開放感のある造りで、床暖房や各居室から行きやすい場所にトイレが設置されているなど設備面が充実している。季節行事に合わせた装飾や手作りカレンダーも飾られており家庭的な温もりが感じられる。新しく着任した管理者は、法人研修や内部研修を計画的に実施して職員育成に力を入れている。また、職員の意見や提案に耳を傾け、全職員で検討しながら各利用者に応じた適切なケアを検討している。家族の意見を定期的に書面で聞き取ったり、利用者の些細な変化を電話で伝えながら家族との連携も深めている。本人の様子を書いた写真入りの個別手紙も2か月ごとに家族に送っている。排泄の自立に向けては、二人介助で支援しながら昼夜ともに可能な限りトイレで排泄できるように取り組んでいる。感染症の流行により地域行事に参加する機会は無くなったが、常に町内会長と情報交換しながら地域連携を継続している。今後は感染症の収束状況を見ながら地域交流や外出行事を再開し、利用者が楽しく過ごせるように工夫したいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を入社時や会議において理解・共有する場があり、日々ケアのサービスに生かしている。また、いつでも確認できるように理念をユニット内に掲示している。	「住み慣れた地域の中で、家庭的な雰囲気の下その人らしい生活ができるように援助する」という内容のケア理念を作成し、事業所内要所に掲示している。新しい管理者の下、全職員で検討しながらケア理念の見直しも考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス感染防止の為、地域行事が全て中止となっていますが町内会長様と常に情報交換を行い連携を取っている。	感染症流行前は地域行事に参加していたが、現在は管理者が地域の防災会議に参加したり町内会長と情報交換する程度になっている。利用者は近くの公園に出かけたり、散歩で近隣の庭先の花を見学している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時など、認知症介護についての相談を受けたときはアドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、現在は新型コロナウイルス感染予防のため書面開催としている。行事報告やホームでの出来事、職員状況などを報告している。また、事前に参加予定者より地域への発信資料をお預かりしご家族へお送りするなど、架け橋となっている。	感染症流行のため書面会議を開催し、行事や利用者状況、職員の入退職など事業所報告を中心にを行っている。家族や地域包括支援センター、町内会長からの意見も事前に聞き取るなど工夫しているが、多くの意見が寄せられるまでには至っていない。	事前にテーマを設けたり、議事録に役立つ情報資料などを添付して質問や意見を聞き取るなど、書面会議の更なる充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告を行い、登録変更などで不明点を相談したり毎月の空室状況の報告を行っている。	現在は、提出書類は郵送したりメールでやり取りすることが多くなっている。区役所におむつサービスについて相談したこともある。普段から情報交換しながら、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束についての勉強会の開催と6ヶ月に1度の研修会後には学んだことを業務に活かせるようレポートの提出をし職員全員が意識している。また、社内で作成したマニュアルをいつでも閲覧できるようにしている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、年2回の勉強会と3か月ごとに不適切防止委員会を開催している。勉強会の資料と不適切防止委員会の議事録を分かりやすく整備したいと考えている。玄関の鍵は夜間のみ施錠しているが、家族了解の下、防犯面を考慮して日中の施錠も検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度の勉強会、6ヶ月に1度の研修会を行っている。また、日々のケースの中で気になる点など職員全員がお互いに声を掛け合い虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している方がおり後見人制度に携わる機会がある。さらに、後見制度についてカンファレンスなどで学ぶ機会も設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、できるだけ不明な点を質問しやすい雰囲気作りを心がけ、コミュニケーションを交えながら説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族へ意見書の提出をお願いしており、意見を頂いている。頂いた意見・要望を尊重し、職員全員で共有・話し合いを行い運営に反映させている。	来訪時や電話で家族の意見や要望を聞き取り、タブレット端末やパソコンに記録している。年数回、書面で家族の意見を聞いている。2か月ごとに写真を入れた個別の手紙を家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を行っている他、職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。また、受けた意見・要望については役職者、ユニットリーダーと共有し連携して改善に努めている。	管理者は普段から職員と話をする機会を設け、率直な意見や要望を聞き取っている。毎月のケアカンファレンスでも意見交換している。日々のケアについて、職員の提案が活かされることも多くある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間契約内容の改定があり、疑問や不安を聞く機会も多くあり、職員が納得して働けるように都度丁寧に説明を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの課題を把握し、必要な助言やアドバイスを随時行っている。働きながら学べる資格取得制度も設置されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症の理解を深めるための上映会に参加したり、教員講習会にて全国の介護従事者との意見交換やネットワークを構築することが出来ている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報をもらい、ご本人やご家族との面談の際にも情報の収集とアセスメントをしっかり行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談でお話をお聞きし、グループホームの特徴をお伝えしご家族の要望にどのような支援が行えるか丁寧に説明するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で出来る限りご本人とご家族の意向や困っていることを伺い、多職種と連携しサービス開始の支援内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の残存能力を見極め、日々の生活の中で出来る事はご自分で継続して出来るように支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止対策で面会などの制限があるが、日々の様子を電話やビデオ通話など活用しご家族を感じる機会を作れるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止対策により難しい部分が多いが、ご友人からの手紙や年賀状をお渡しし自室に飾るなどのお手伝いを行っている。	友人や知人から年賀状や手紙が届いたり、電話が来る利用者もいる。感染症流行前は白石神社祭や初詣に出かけたり、花見や紅葉見学を楽しんでいた。収束状況を見ながら、馴染みの場所への外出行事を再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性や個人個人の個性を把握して、コミュニケーションのサポートを心がけている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な情報提供を行ったり、退去後もご家族などからの相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどのように過ごしたいのか考えながら支援するよう努め、職員間で情報共有や意見交換を日々行っている。	会話からほとんどの利用者の思いや意向を把握することができるが、仕草や表情から汲み取ることもある。基本情報シートを新たに作成しているが、利用者の趣味や嗜好、暮らし方の思いなどの記録は不足している。	センター方式シート(B-3)などを参考に、利用者の趣味や嗜好、暮らし方の思いがわかる書類を作成し、定期的に更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況の把握に努め、必要であればご家族やケアマネージャー、ソーシャルワーカーなどから追加で聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできる事、やりたい事などをくみ取れるようにコミュニケーションを取り、アセスメントを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで情報を共有し、日々の細かい変化などは申し送りノートなどで周知している。必要時にはアセスメントの見直しを行っている。	担当職員が作成したモニタリング記録表を基に職員間で検討し、計画作成担当者が評価表を記録して3か月ごとに介護計画を作成している。介護計画に関する記録は、タブレット端末の日々の記録にわかりやすく入力したいと考えている。	介護計画の見直しに活かせるように、サービス内容項目に沿って評価を行うなどの工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングを行っている。また、日々職員が気付いた事など情報を共有し支援に活かせるよう、アセスメントや見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の他にご本人やご家族の希望があればオンライン面会など工夫して対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止対策により地域交流は出来ていないが、チラシなどを一緒に見ながら近所のスーパーの売り出しや、近所のお菓子屋の話をするなどして、地域資源に触れる機会を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人またはご家族が自由に選択できる環境にあり、希望があれば往診へ切り替えるための対応も行っている。	月2回、協力医療機関の往診を全利用者が受けている。専門医などの外部受診は事業所で支援し、受診結果は協力医療機関の医師にも報告している。受診状況は「受診経過表」に個別に記録している。	

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師による健康管理がある。また、外部の受診をした際に結果を担当看護師に都度連絡をし連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護添書やサマリーを利用し、多職種との情報共有と連携に努め、入院時や退院してからも入居者が安心して生活し続けられるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時や入居時に重度化した際の対応について説明し、指針について同意を得ている。また、入居後も状況毎に相談があれば都度説明やアドバイスを行っている。	「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、経口摂取ができなくなった時は事業所での生活が難しくなることを説明し、病院や適切な施設について相談に乗ることを伝えている。普段から利用者の様子を家族に伝え、体調変化に応じて方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事対応マニュアルを使用し、定期的に緊急事の対応についての勉強会を開催している。また、日頃から提携医療機関や各主治医と情報を共有し、緊急事に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から災害時の避難場所の周知に努めている。また、今後の避難訓練に地域の方へ参加を呼びかけていく予定。	今年度中に昼夜の火災や水害を想定して自主訓練を実施する予定である。救命講習は法人研修や内部研修で行いたいと考えている。地震時などのケア別の個別対応についても職員間で話し合う意向である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様の尊厳や自尊心、羞恥心を考え入居者様と接するように努めている。また、既往歴を共有しその方の生き方を尊重した支援方法を検討している。	利用者の呼びかけは苗字か名前に「さん」づけとし、利用者から聞こえない場所で申し送りを行っている。職員は法人のeラーニングで接遇研修を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別カンファレンスを行い、自己決定や自律につながる声かけ・アプローチをどのように行ったら良いか検討し支援に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその方その方のペースに合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服をご本人と一緒に選んだり、可能な方は整髪はご本人自身で行われています。ご自分で行え根井方にも、鏡を見ていただきながら整髪介助を行っている。例年、2ヶ月に1回の訪問理美容を利用している。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事などで季節を感じられる食事を出前したり、日々の食事の準備を入居者様と一緒にやっている。	本部からメニューと食材が提供されるが、敬老の日など行事の際に出前を取ることもある。誕生日にはケーキを用意している。利用者が調理や盛り付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が考えた物を提供している。個人の食事摂取・水分量をチェック表を使用し、把握と共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後と起床時に口腔ケアを行っている。出来るところをご本人に行っていただき、必要な部分はお手伝いしている。歯科医師にのる定期的なアドバイスを得ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、その方の排泄パターンをアセスメントし訴えの少ない入居者様へは3時間を目安に声かけ、誘導を行っている。	全員の排泄状況をタブレット端末に入力し、職員間で共有している。日中はトイレでの排泄を支援しており、夜間は状況に応じてベッドで排泄用品を交換している。誘導の際は羞恥心に配慮し、さりげなく声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操に加え、毎朝ヨーグルトを提供している。また、場合により医師の指示のもと下剤で調整することがある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り入居者様の希望に添った入浴支援を行っている。入浴剤を使用するなど、リフレッシュ出来る環境を作っている。	毎日入浴可能で、主に午前に関各利用者が週2回程度入浴している。入浴を嫌がる場合は声かけの工夫で入浴につなげている。全員ができるだけ湯船に入れるよう介助し、入浴剤の使用や職員との会話で入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの就寝環境に合わせ、照明や温度を調整している。眠れないと不安を訴える入居者様には医療機関に相談し連携を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員全員が共有出来るようにしている。頓服薬や処方が変わった際には様子をケースに記録して変化を観察している。また、服薬マニュアルに沿って誤薬防止に努めておる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様とのコミュニケーションの時間を設けるようにつとめている。毎食後の茶碗拭きや洗濯干しをお願いすることにより、入居者様から作業を行ってくださるようになっている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染防止対策で外出は制限されているが、車椅子の方も希望があれば建物内を案内したり、2階に行き来出来る支援が出来ている。暖かい日には外へ出て日光浴へお連れしている。	利用者は近くの公園で散歩したり、近所の住民に花壇を見せてもらっている。感染症流行前は花見や紅葉狩り、札幌ファクトリーのクリスマスツリー見物などに出かけていた。感染症が落ち着いたら外出行事を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分でお金を管理可能な入居者様はいないが、可能な方は所持していただく事は可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。また、ご家族や友人から届いた手紙などご本人へ手渡しし、必要であれば職員がいつでも見れる居室などに展示している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部に折り紙などで作成した季節を感じられる展示や、設えをし華やかで心地よい空間作りに努めている。また、浴室と脱衣所の温度差に注意するなど、気を配るように努めている。	日当たりの良い居間と別に食堂スペースがあり、いづれも中庭から明かりが入る。共用空間に多くのソファを置き、どこでも寛げるようにしている。床暖房で暖かく、トイレが4か所、各居室から行きやすい場所に設置されている。壁には利用者手作りの装飾やカレンダーが飾られ、親しみやすい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が気分転換が出来るように、テレビを視たり新聞が読める場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室にはご自分の好きな写真や絵、小物を用い、入居者様が安心できる環境作りを行っている。	居室にはタンスや戸棚、本棚、机、イス、家族の写真などが持ち込まれている。壁には自作のキルティング飾りなどを自由に飾っている。居室も床暖房で暖かい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはカレンダーや時計、トイレや居室前には迷わぬように表示を設けるなど、工夫をしている。		

ふれあいの里グループホームこもれび
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502405		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームこもれび Bユニット(2階)		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-30		
自己評価作成日	令和4年11月4日	評価結果市町村受理日	令和5年2月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502405-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

直ぐ近くには月寒川が流れ、白石東公園や白石かしわ山公園もあり札幌市内にありながら緑豊かで静かな環境に位置しており、春には公園で桜を楽しむことができます。また、近隣には小学校があり子供たちが元気に遊ぶ姿が見られ、近隣には白石神社もあり、地域と共に生活を送ることができる環境にあります。施設内では暖かな陽が差し込む居間で入居者様がゆったりと過ごされ、カラオケやカルタ、体操や風船パレー等のレクリエーションや日常生活支援としてもやしのひげ取りや野菜の皮むき、洗濯干し等も積極的に行われています。
職員育成では資格取得制度があり、キャリアアップが可能な環境が整備されやりがいを感じられる体制があり、さらに日々意見交換を行う等、チームで支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念を共有し、事務所やユニット内でも確認できるように掲示している。さらに日々の支援の指標として遵守に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防対策により数年行われていないが、以前は地域開催の行事に入居者様と参加していた。地域のイベント開催状況を町内会長様に確認し検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や、ご家族から認知症の方の家族としての悩みや苦勞の相談を受けた際には気持ちに寄り添いお話を聴き、専門的なアドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所全般の活動を入居者様やご家族にも書面で参加していただき、報告や意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より不明な点は包括や市役所へ相談し、助言をいただいで協力関係を築くように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規入職者への研修や、職員への定期的な研修を実施し、理解を深め合うことで予防・防止につながっている。具体的な行為を記したマニュアルは、職員がいつでも確認できるよう事務所に掲示している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時のオリエンテーションで高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設け、さらに定期的に勉強会を行い虐待の防止を徹底している。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援の大切さを、カンファレンス等で学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の改定があった場合には、ご家族へ十分説明し同意書を頂いている。また、入居時において契約内容を説明し不明な点があれば補足説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に意見書の収集を行って入居者様・ご家族の想いや意向に耳を傾けるように努めている。また、いただいたご意見を職員全員で共有している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面談する機会を設けたり、連絡ノートなどを活用し提案ができる環境がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務の中で職員の意見や提案などを出来るだけ取り入れ、役職者によるバックアップ体制も出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、職員個々の技術やレベルのマネジメントを行い、個別での指導も随時行っている。また、資格取得制度を利用しスキルアップできる環境が整えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人的にスキルアップを目指し、資格取得のため講習会に参加し、他法人の方と情報交換し、ネットワーク構築を積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時にアセスメントを行い、ご家族の想いに寄り添いお話を聴くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いや不安をくみ取れるような場づくりを心がけ、必要に応じて助言するなど関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に加えて、場合によって他職種からも情報を伺い課題を捻出し、支援計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはできるだけ継続して行えるように自律心を大切にしつつ、出来ることは奪わないような支援を心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止対策で面会などの制限しているが、日々の様子を電話やビデオ通話など活用して、できる限りお伝えできるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響により、外部との交流は少なくなっているが、入居前からのご友人と面会をされるなど、関係が途切れることのないように対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性をモニタリングし、食席や普段過ごされる場所への工夫をしている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、在所中の様子や介護支援計画書の開示を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が難しい方は、ご家族の意見を伺うなど、その方にとって最良な過ごし方を定期的に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や居宅事業から、既往歴や基本情報をいただき、出来る限りその方を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方をケースや申し送りを通して把握し、その方のペースに合わせた支援のタイミングなどを都度検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度個別カンファレンスを開催し、課題について検討している。また、日常的にも課題の検討や評価について話し合いケアプランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で気づきや経過などをケース記録を活用し共有している。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば通話やビデオ通話で対応するなど、対応している。また、予約制で面会も可能となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は町内のお祭りや近所の神社へ初詣に行っていたが、感染予防のため、自粛している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ馴染みのある病院の受診を継続している。また、入居者様の健康状態についての相談なども医療機関と連携が取れている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護と往診時に、入居者様の体調について相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療機関と情報を共有し、入居者様が早期に退院できるように退院後の支援についても柔軟に対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の指針について説明し、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予想される急変の際の対処法を主治医に確認し、対応に当たれるように共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難マニュアルをいつでも閲覧できるようにしてあり、その内容を定期的に確認する機会を設けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方その方を尊重し、尊厳を大切にした支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思表示しやすい問いかけ方を意識している。飲み物など、ご本人の希望を聞いて提供するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調やペースに合わせ、過ごしていただけるように強引な声掛けはせず、少し時間をおいて誘導するなど工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。その日着る服はご本人と一緒に選ぶようにしている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事毎に食事を工夫したり、もやしのひげ取りや野菜の皮むきなど、入居者様と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少なくなってきた方へは、医療機関と相談し栄養補助食品なども提供して栄養摂取が維持できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の残存機能に合わせて、出来ないところのブラッシングの声かけやお手伝いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し、排泄のタイミングのアセスメントを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に毎日牛乳を提供している。また、無配便3日目より下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調なども考慮し入居者様のペースを尊重した入浴対応を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力が低下している方には昼間ソファで休んで頂いたり、テレビを視ながらゆっくりと過ごせるスペースを確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を確認し、どのような薬を服薬し、効能と副作用などについての把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の茶碗拭きを担当制にする事によって、入居者様自身が担当表を確認し役割とされている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出の機会は減ったが、天候の良い日にご本人の希望があれば可能な限り外出などの支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を強く希望されている方へは、万が一のリスクをキーパーソンへ十分に説明をさせて頂き、所持して頂いている。また、その方の能力によってキーパーソンと相談を行い金額を決めさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できる体制がある。職員が補助として着くこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気が乾燥する時期には加湿器を使用したり、夏はエアコンを適度に使用し温度・湿度管理に気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ気の合う入居者様同士楽しく過ごしていただけるように食席の配置を配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅で使用していた馴染みの家具などを置き、配置もご本人やご家族と相談して決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかりやすいように表示を設け、夜間はスポット照明を活用するなど工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームこもれび

作成日：令和 5年 2月 16日

市町村受理日：令和 5年 2月 21日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	事前にテーマを設けたり、議事録に役立つ情報資料などを添付して質問や意見を聞き取るなど、書面会議のさらなる充実を期待したい。	状況報告だけではなく意見や質問を出していただけるよう工夫する。	テーマをきめてそれに沿った資料等を添付することで関心を持って頂く。	12か月
2	23	センター方式シート(B-3)などを参考に、利用者の趣味や嗜好、暮らし方の思いがわかる書類を作成し、定期的に更新するよう期待したい。	本人の今できる昔からの趣味や嗜好、本人の意志に沿った支援を職員間で統一できる体制を作っていく。	入居時にセンター方式B-3シートを活用し情報収集をし本人の思いに沿ったどの様な支援が出来るかを月1度のケアカンファレンスで話し合い職員間で統一していく。	12か月
3	26	介護計画の見直しに活かせるように、サービス内容項目に沿って評価を行うなどの工夫を期待したい。	サービス内容項目と連動した実施記録とする。	介護職員が常にケアプランを確認できるよう環境整備をおこない、実施記録に反映させる。	6ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。